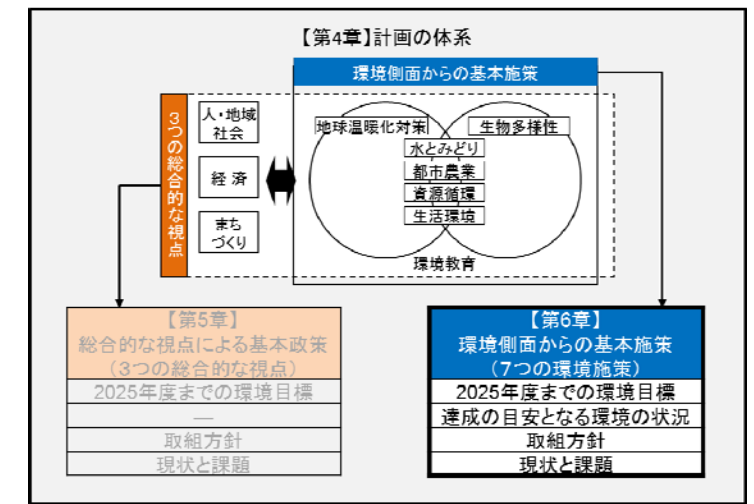


環境側面からの7つの基本施策の「達成状況の目安となる環境の状況」及び「取組方針」

- ① 「中長期的な目標（2025年度までの環境目標）」は継承します。
- ② 「達成状況の目安となる環境の状況」を見直し、横浜の環境の全体像をわかりやすく伝えます。

※客観的に判断しやすいよう、できるだけ数値を含んだ定量的な評価項目を設定し、数値で見せることがふさわしくない項目については、事例紹介やアンケート結果を紹介することとします。

- ③ 「取組方針」を2025年度までの環境目標達成に向けたものに見直します。



※表中、下線 は現計画からの見直し箇所

u>

	①中長期的な目標（2025年度までの環境目標）	②達成状況の目安となる環境の状況		③2025年度の環境目標達成に向けた取組方針（案） 及び <u>関連計画</u>
		現計画	改定案	
1 地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者・行政が一体となって、エネルギーの効率的な利用や再生可能エネルギーの導入など、市民が快適に低炭素型の生活ができるまちづくりが進み、<u>低炭素活動が浸透し、温室効果ガスの排出削減につながっています。</u>また、気候変動の影響に適応しているまちづくりが進んでいます。【調整中】 	<p>【温室効果ガス排出量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度までに2005年度比で16%削減 ・2030年度までに2005年度比で24%削減 ・2050年度までに2005年度比で80%削減 <p>※「横浜市地球温暖化対策実行計画」(H26.3)の目標</p>	地球温暖化対策実行計画部会にて審議中	<p>(地球温暖化対策実行計画部会にて審議中)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① <u>市民力と企業協働による取組促進</u> ② <u>最先端のスマートシティの実現</u> ③ <u>環境と経済の好循環</u> ④ <u>都市間連携と国際発信</u> ⑤ <u>徹底した省エネ</u> ⑥ <u>持続可能なまちづくり</u> ⑦ <u>最大限の再エネ導入と水素社会の実現</u> ⑧ <u>適応策の強化</u> <p>横浜市地球温暖化対策実行計画／横浜市環境未来都市計画</p>
2 生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが生活の中で自然や生き物に親しむライフスタイルを実践しています。 生き物の重要な生息・生育環境である樹林地や農地が安定的に保全されるとともに、住宅地や都心部で豊かな水・緑環境が増え、生き物のつながりが強まり、市域全体で生物多様性が豊かになっています。 企業の流通過程において、材料調達から生産工程、消費行動にわたり、生物多様性への配慮の視点が盛り込まれ、生物多様性が市場価値として大きな役割を有しています。 「市民や企業等の主体的な行動が支える豊かな生物多様性」が横浜の都市のイメージとして定着しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に関心を持ち、身近な問題として考える市民の増加 ・多様な動植物などの生物の生息・生育環境の保全の推進 ・企業による生物多様性の取組の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な動植物などの生き物の生息・生育環境の保全の推進 ・市民が、身近な自然や生き物にふれあい、楽しむ機会の増加 ・生物多様性に配慮した行動を自らとる市民や企業等の増加 	<ol style="list-style-type: none"> ① 普及啓発 ② 保全・再生・創造 ③ しぐみづくり ④ まちづくりと経済活動 <p>横浜市水と緑の基本計画／横浜みどりアップ計画(これからの緑の取組)／「横浜つながりの森」構想／横浜市下水道事業中期経営計画／横浜市地球温暖化対策実行計画／横浜市環境未来都市計画／横浜市都市計画マスタープラン など</p>
3 水とみどり	<ul style="list-style-type: none"> 樹林地や農地などのまとまりのあるみどりが保全されるとともに、都心部などの市街地で新たなみどりが創造されています。 土地利用の改善や雨水浸透ます等の普及により、雨水の浸透が進むことで、地下水のかん養、わき水の増加、河川や水路の水量の増加などにつながり、良好な水循環が再生しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの総量(緑被率)が増加へ転ずる ・雨水浸透機能の強化(雨水浸透ますや雨水貯留などの取組数拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの総量(緑被率)の維持、向上 ・緑地保全制度による樹林地の指定拡大 ・雨水浸透機能の強化(雨水浸透ますや雨水貯留などの取組数拡大) 	<ol style="list-style-type: none"> ① 市民とともに次世代につなぐ森を育む ② 市民が実感できる<u>緑や花</u>をつくる ③ 水循環の再生 ④ <u>水辺の保全・創造・管理の推進</u> <p>横浜市水と緑の基本計画／横浜みどりアップ計画(これからの緑の取組)／横浜市下水道事業中期経営計画</p>
4 都市農業	<ul style="list-style-type: none"> 横浜の食を支える農業と大きな消費地である都市生活が共存し、<u>地産地消が積極的に取り組まれているとともに、新鮮で安全な農産物が安定的に生産される活力ある都市農業が行われています。</u> 農地が農業生産の場に加えて、景観保全や環境学習の場、防災、自然環境等、多面的機能が発揮されています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水田の保全:123ha《累計》 ・市民ニーズにあわせた農園面積:80ha《累計》 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズにあわせた農園面積:80ha《累計》 	<ol style="list-style-type: none"> ① 持続できる都市農業を推進する ② 市民が身近に農を感じる場をつくる <p>横浜市水と緑の基本計画／横浜みどりアップ計画(これからの緑の取組)／横浜都市農業推進プラン</p>

	①中長期的な目標（2025年度までの環境目標）	②達成状況の目安となる環境の状況		③2025年度の環境目標達成に向けた取組方針（案） 及び 関連計画
		現計画	改定案	
5 資源循環	(1)一般廃棄物対策 [横浜の未来(一般廃棄物行政における将来ビジョン)] ・みんなが協力し合い、誰もが3R行動を実践する環境配慮型のライフスタイル・ビジネススタイルが定着しています。 ・より環境負荷の少ないごみ処理システムが構築されています。 ・清潔できれいなまちが実現しています。 ・全ての市民がごみのことで困らない住みよいまちが実現しています。	<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの排出量を平成 37 (2025)年度までに平成 21 (2009)年度比で 50%以上(約 14 万トン-CO2)削減 総排出量(ごみと資源の総量)を平成 37 (2025)年度までに平成 21 (2009)年度比で 10%以上(約 13 万トン)削減 	<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理に伴い排出される温室効果ガスの排出量を 2025(平成 37)年度までに 2009 (平成 21)年度比で 50%以上(約 14 万トン-CO2)削減 総排出量(ごみと資源の総量)を 2025(平成 37)年度までに 2009(平成 21)年度比で 10%以上(約 13 万トン)削減 	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>環境学習・普及啓発</u> ② <u>リデュース(発生抑制)の推進</u> ③ <u>適正処理の推進</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">横浜市一般廃棄物処理基本計画(ヨコハマ3R夢プラン)</div>
	(2)産業廃棄物 ・ <u>横浜市内で発生又は処理される産業廃棄物の減量化・資源化、適正処理等を進めます。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の発生抑制を進めるとともに、発生量に対する最終処分率のさらなる削減を目指します。 産業廃棄物の適正処理や脱温暖化を推進し、将来にわたって安全安心な産業廃棄物の処理体制を構築します。また、緊急や災害時のための迅速な廃棄物処理体制を整えます。 産業廃棄物に対する市民の関心を高めるとともに、分かりやすい行政を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な循環型社会を実現するために、更なる3R(産業廃棄物の発生抑制、再利用、再生利用)を推進し、最終処分量を削減します。 	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>多量排出事業者等への処理計画等の策定指導</u> ② <u>建設系廃棄物の3R推進</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">第7次横浜市産業廃棄物処理指導計画(平成 28 年度～平成 32 年度)</div>
6 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>大気・水などの環境が良好に保全されるとともに、化学物質などの環境リスクが低減しています。</u> ・<u>音やにおいなどの都市生活型環境が改善され、市民生活の快適性が向上しています。</u> ・<u>市内のあらゆる主体が積極的に環境に関する取組を実施しています。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・NO2、PM2.5、光化学オキシダントなど7項目の環境基準等への適合 ・生活環境項目(BOD、COD、全窒素、全りん)健康項目(カドミウム、シアン等)など3項目の環境基準等への適合 ・地下水の水質汚濁に係る環境基準など3項目 ・ダイオキシン類に係る環境基準への継続した適合など4項目 ・騒音に係る環境基準への適合など4項目 ・ヒートアイランド現象による都心部の温度上昇を抑え、市域の気温格差を少なくする 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基準や水環境目標の達成率の向上及び継続的な適合 ・光化学スモッグ注意報の発令日数を0にする ・水辺の生物指標が 90%以上の地点で「大変きれい」または「きれい」と評価される ・市民の生活環境に関する満足度の向上 ・環境活動を実施している市民・事業者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ① <u>環境への負荷の低減</u> ② <u>地域に寄り添った環境対策の推進</u> ③ <u>あらゆる主体の環境活動の促進</u> ④ <u>環境情報の発信と共有</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">生活環境保全行動指針(仮)／横浜市ヒートアイランド対策取組方針</div>
7 環境教育・学習(新規)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境のみならず、生活様式や社会経済のあり方を学び、自ら考え、持続可能な社会の実現につながる具体的な行動を実践する人を育てます。 ・環境教育が、あらゆる主体によって、あらゆる場で自然やエネルギーといったテーマの枠にとらわれず、総合的に関連づけて展開されています。 ・これまで学校教育や地域活動のなかで、また行政施策としてそれぞれ進めてきた取組や活動をつなげ、あらゆる主体の協働によってさらに発展・展開させます。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動に取り組む市民等の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自然や命を大切にする感性を養い、自然環境の保全・再生に取り組む人の育成 ② 限りある資源やものを大切にし、環境負荷の少ない生活を実践する人の育成 ③ 身近な問題から地球環境の保全まで、広がりのある環境教育の実践 ④ あらゆる場で学び、環境行動を実践する社会の実現 ⑤ 環境教育を通して国際協力、国際交流などへの貢献 ⑥ 協働による環境行動の実現 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">横浜市水と緑の基本計画/横浜市一般廃棄物処理基本計画(ヨコハマ3R夢プラン)/横浜市地球温暖化対策実行計画/横浜市教育振興計画/協働推進の基本指針 など</div>